

CCBA 合格体験記

株式会社 富士通システムズ・ウエスト

伊藤 健

1.はじめに

2015年8月にCCBAの日本語CBT試験を受験し合格しました。合格するにあたり合格までの体験を皆さんと共有して今後、受験される方に少しでも役に立てて頂ければ幸いです。

2.受験の動機

現在、私は社内の要件定義技術の整備、普及に関わっており、私がこの仕事に関わり始めた時にBABOKの存在を知りました。社内で体系化した要件定義手法は理解しているものの、一般的な上流工程に関するスキルを身に付けて社内の手法との関係に対する理解を深めるとともに、ビジネスアナリストのスキルアップをしたいという思いから資格取得を目指しました。

3.受験の準備

(1)受験申請

BABOKの資格は申請手続きが大変と聞いていましたが、申請内容がPMPと似た部分が多かったのとIIBA日本支部のCCBA出願画面ガイドに申請方法が詳細に記載されていたので思ったよりはスムーズに進められました。ただし、PMP申請とは異なるタスクの選択については、後述する試験対策講座で教えて頂いた情報がないと出願に必要な工数が把握できなかったと思います。あと、推薦状についても試験対策講座で推薦内容の事例を教えたので、推薦人にそれを伝えすぐに推薦状を書いて頂くことができました。申請したから1週間ほどで出願が受理されました。

(2)受験勉強

2015年6月に富士ゼロックス教育研究所主催「CBAP(R)&CCBA(R)試験対策」を受講しました。内容はBABOK(R)ガイド日本語版をもとに重要なポイントに対してラインを引きながら理解する、また理解度をチェックするための模擬試験を行うというものでしたが、これによりBABOKの大まかな体系やタスク、テクニックの内容を理解することができました。

自己学習としてはBABOK(R)ガイド日本語版と、上記試験対策講座にて講師から頂いた

章ごとのタスクとそのインプット&アウトプットの関係図の穴埋めシート、模擬試験問題集を使用し、それ以外にテキストや問題集は購入しませんでした。穴埋めシートは10部ほどコピーしてBABOK(R)ガイド日本語版を見なくても全て埋められるように何度もやりました。

学習した観点としては下記4点を主に理解するようにしました。BABOK(R)ガイド日本語版で下記に関する箇所を読み込むとともに、模擬問題集では観点が同じ問題をノートで整理して問題の傾向を掴みました。

- ・上記にもあるタスクのインプットとアウトプット (特にそのタスクにしかないもの)
- ・タスクごとのテクニック (そのタスクにしかないテクニック)
- ・テクニック関の関係 (合わせて使用するテクニック、類似するテクニックの違い)
- ・タスクによる要求やソリューションなどのステータスの変化
(要求の場合、表明された/検証されたなど、ソリューションであれば設計された/構築された/導入されたなど)

勉強時間としては試験対策講座受講後の約2ヶ月間に1日1時間を週3~4日のペースで学習しました。

4.受験

受験はプロメトリックの御茶ノ水ソラシティテストセンターで行いました。10時受験で予約していましたが、余裕を持って9時半に着いたので受付をしたらすぐに受験させてくれました。

受験ははじめの方の問題で思ったより回答に悩む問題が多く、2時間で一通り解いた際にマークを付けた問題が50問ほどありました。そこから1時間でその50問に対して問題をよく読み消去法で回答を選択し、残りの30分でマークを付けていない問題に対して簡単に選択ミスがないかチェックしました。少し余裕を持って終わるつもりでしたが3時間半フルに使いました。回答終了後にアンケートを何問か回答した後に合格が表示されたのでほっとしました。

合格はできましたが、上記(2)受験勉強のところで記載した4つの観点できちんと理解できておらず模擬問題自体を暗記していたために回答に悩んだのが反省点です。模擬問題で出題されない箇所でも、もっとテキストを読み込み理解しておくべきでした。

5.最後に

今回のCCBA合格にあたり、試験対策セミナー講師から頂いた資料や合格者の体験記など非常に参考になりました。感謝致します。また、これをきっかけに更にビジネスアナリスのスキルを高め、フィードバックできればと考えております。